

Reference D1

Japanese Utility Model Kokai No. 54-136167

Laid-opening date: 21 September 1979

Application No.: 53-32804

Filing date: 14 March 1978

Applicant: KK MARYQUANT COSMETICS JAPAN, Japan  
(Transliterated)

Title: Cocmetic bottle

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑫公開実用新案公報 (U)

昭54—136167

⑪Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 65 D 85/70

識別記号 ⑫日本分類  
133 B 81

庁内整理番号 ⑬公開 昭和54年(1979)9月21日  
7039—3E

審査請求 有

(全 1 頁)

⑭化粧瓶

⑮実 願 昭53—32804

⑯出 願 昭53(1978)3月14日

⑰考 案 者 小林賢介

羽曳野市羽曳ヶ丘8丁目12番

⑱出 願 人 株式会社マリークワントコスメ  
チックスジャパン

東京都渋谷区渋谷1丁目1番4  
号

⑲代 理 人 弁理士 中尾房太郎

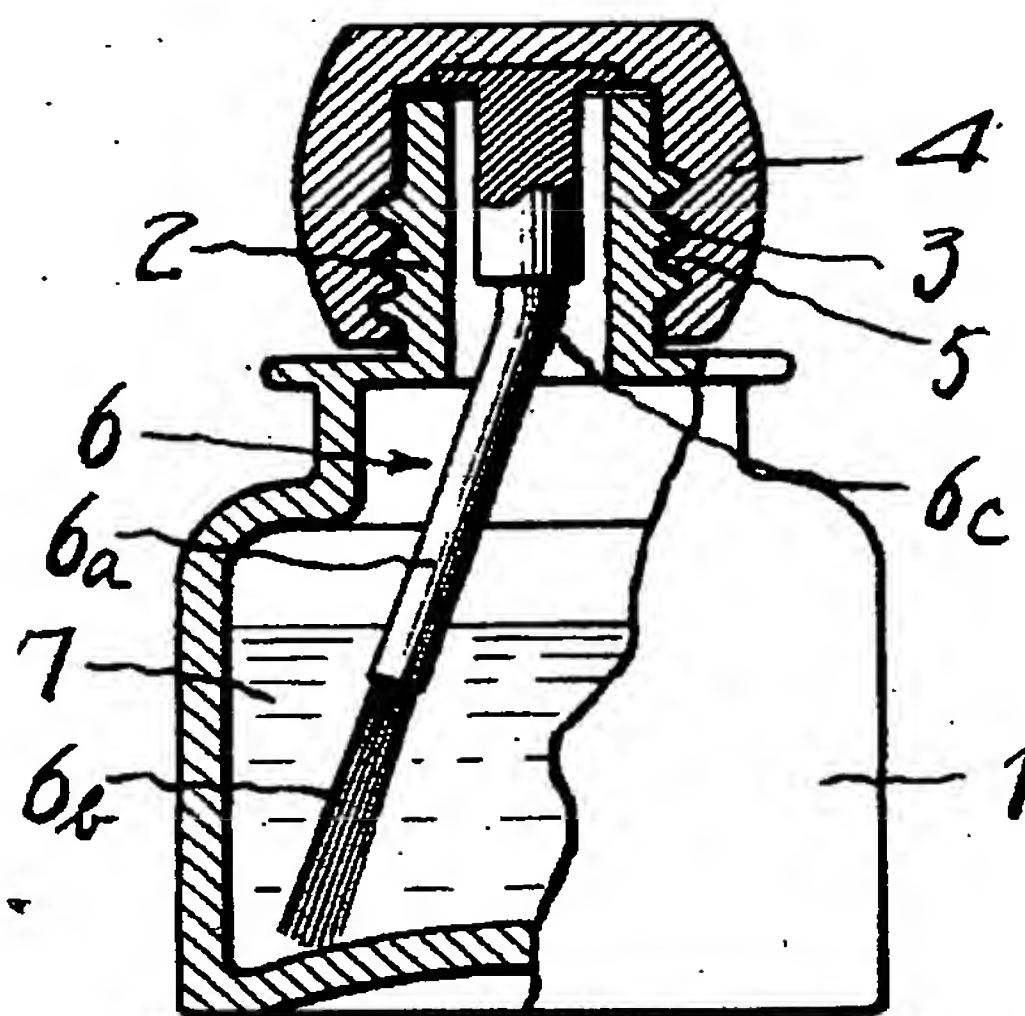
⑳実用新案登録請求の範囲

瓶主体1の口縁に螺合したキャップ体4の下面に筆体6を一体的に垂設し、該筆体6を瓶内に挿入してなる化粧瓶において、前記筆体6をその筆先部6bが瓶底の外周部に向かうように傾斜させてキャップ体4に固着したことを特徴とする化粧瓶。

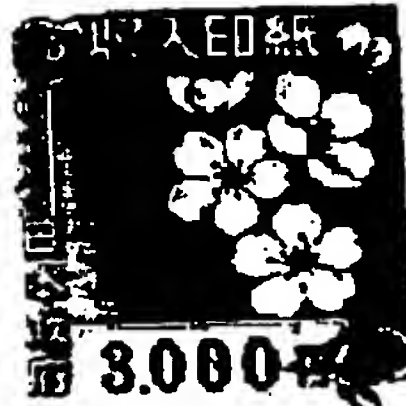
図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示す一部縦断正面図である。

1……瓶主体、3、5……螺子部、4……キャップ体、6……筆体、6a……筆軸、6b……筆先部、6c……屈曲部、7……化粧液。



公開実用 昭和54—136167



(3,000円)



実用新案登録願

昭和53年3月14日

特許庁長官 殿

考案の名称 ケ 化 シ 野 ビ ン  
ケ 化 シ 野 ビ ン

考 案 者

羽 曳 野 市 羽 曳 ケ 丘 5 丁 目 / 2 番  
コ バ ケ ケ ス  
小 林 賢 介

実用新案登録出願人

シ ャ ッ ク シ ャ ッ  
東 京 都 澁 谷 区 澁 谷 / 丁 目 / 番 々 号

株式会社 マリークワントコスメチックスジャパン

代 表 者 ナ カ マ シ ャ イ  
中 山 寿 一

代 理 人 〒530

大阪市北区梅田 新阪神ビル9階

(2991) 中 尾 房 太 郎

方 式 査 査



54-136167

53 032804

明 細 書

1. 考 案 の 名 称

化 粧 瓶

2. 実用新案登録請求の範囲

- ① 瓶主体(1)の口縁に螺合したキャップ体(4)の下面に筆体(6)を一体的に垂設し、該筆体(6)を瓶内に挿入してなる化粧瓶において、前記筆体(6)をその筆先部(6b)が瓶底の外周部に向かうように傾斜させてキャップ体(4)に固着したことを特徴とする化粧瓶。

3. 考案の詳細な説明

本考案はマニキュアやアイライン用等の比較的高粘度の化粧液を収容した化粧瓶の改良に関するものである。

一般にこの種の化粧瓶においては、瓶の口縁に螺合したキャップ体の下面中央に筆体を一体的に垂設して該筆体を瓶内部の化粧液内に没入させているが、その状態においては筆体が瓶の端々中心線上に一致して垂下しているために、キャップ体を回動させても内部の化粧液が攪拌

されず、キャップを取り外してそのままその筆先に付着した化粧液を爪等に塗付すると濃淡色あらわれる場合が生じることがある。

従つて、従来から使用に際しては瓶からキャップを取り外したのち、該キャップに固着した筆体の筆先部を瓶内に挿入して攪拌しているが、手間を要する上に使用初期においては瓶内に充分な量の化粧液が充満しているので攪拌使用できるが、減量するに従つて筆先を化粧液内に没入させることが困難となり、全量を有効に使用できなくなる欠点があつた。

本考案はこのような欠点をなくするために、瓶の口縁に嵌合するキャップ体の下面に一体的に固着した筆体をその軸線に対して筆先部が斜め外側方に傾斜するように屈曲させ、キャップ体を回転して瓶の口縁に着脱させる際に筆先部が瓶の内周面に沿つて回転して瓶内の化粧液を充分に攪拌するように構成したことを特長とする化粧瓶を提供するものである。

実施例を示す図面について説明すると、(1)は内

部にマニキュア用等の比較的粘度の高い複数の組成成分よりなる化粧液(7)を内蔵した瓶主体で、その上端開口部(2)を小径に形成して該口縁の外周面に雄螺子(3)を形成してある。(4)は内周面に瓶主体(1)の雄螺子(3)に螺合する雌螺子(5)を設けたキャップ体で、その下面中央部に筆体(6)の上端部を一体的に固着してある。この筆体(6)は筆軸(6a)の下端に細毛を集束した羽毛よりなる筆先端部(6b)を固着してなり、該筆軸(6a)の上部を垂直軸心上に対して一側方に屈曲(6c)させることにより該筆軸(6a)を傾斜させて筆先端部(6b)の先端を瓶主体(1)の内底面外周部に近接又は接触させてある。

以上のように構成したので、不使用時には図に示すようにキャップ体(4)が瓶主体(1)の口縁に螺合してその下面に取付けた筆体(6)が化粧液(7)中に没入してあり、この状態から使用時にキャップ体(4)を螺退、回動させると、筆体(6)の傾斜した筆軸(6a)及び筆先端部(6b)が化粧液中を旋回するように一体的に回動して化粧液(7)が全体的に攪拌されるものである。同様に、使用後においてキャップ体(4)を

瓶主体(1)に螺合させる際にも筆体(6)が一体的に回転し、キャップ体(4)が螺進するに従つて瓶主体(1)の内底部までも充分に攪拌することができるものである。

以上要するに本考案は、瓶主体(1)の口縁に螺合したキャップ体(4)の下面に筆体(6)を一体的に垂設し、該筆体(6)を瓶内に挿入してなる化粧瓶において、前記筆体(6)をその筆先端部(6a)が瓶底の外周部に向かうように傾斜させてキャップ体(4)に固着したことを特徴とする化粧瓶に係るものであるから瓶主体(1)の口縁に対してキャップ体(4)を回転して着脱する際に、キャップ体(4)の下面に垂設した傾斜筆体(6)が一体的に回転して化粧液を中心から外周部に亘つて均一に攪拌することができ、従つて化粧液が充分に混合して色の濃淡を生じさせることなく常に同一色の化粧を施すことができ、又、筆先端部(6b)が瓶底の外周部に位置させているので瓶主体(1)を傾斜させることなく瓶底の化粧液までも確実に筆先端部(6b)に付着させて使用でき、瓶主体(1)に内蔵された化粧液を全量有効に使用できる



ものである。

4 図面の簡単な説明

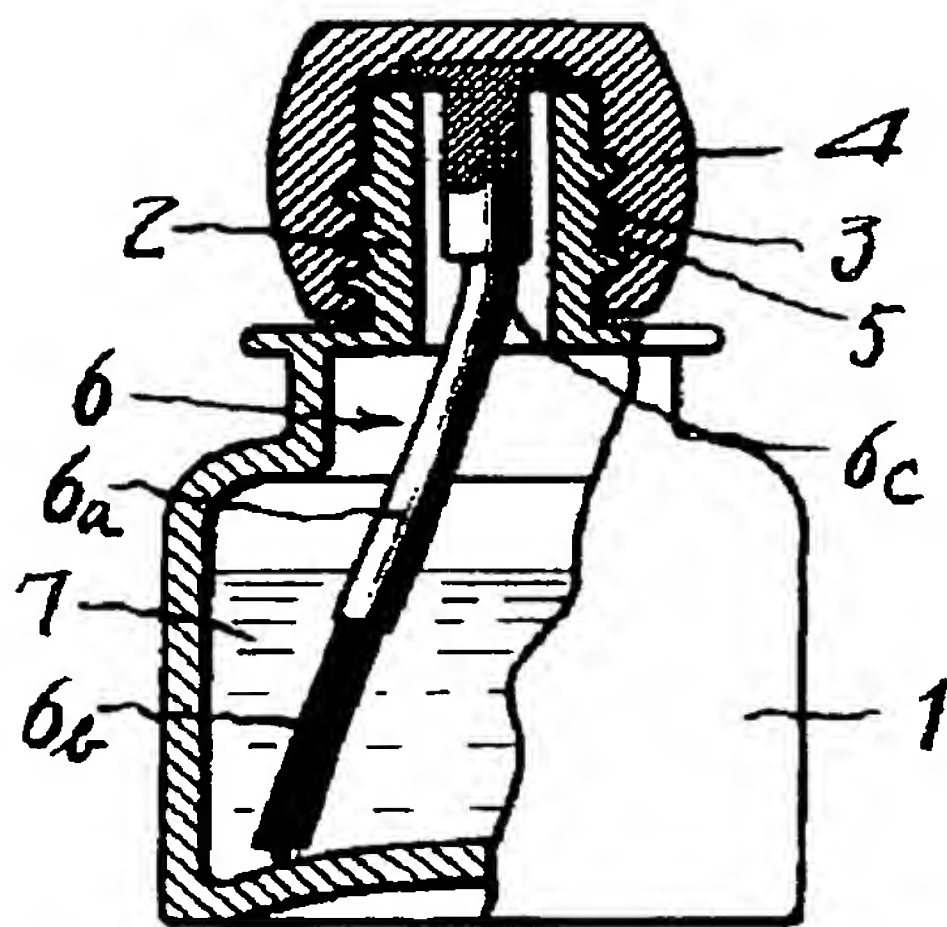
図面は本考案の実施例を示す一部縦断正面図である。

- (1)・・・瓶主体、(3)(5)・・・螺子部、
- (4)・・・キャップ体、(6)・・・筆体、(6a)・・・  
筆軸、(6b)・・・筆先端部、(6c)・・・屈曲部、
- (7)・・・化粧液。

実用新案登録出願人 株式会社マリークワントコスメチクスジャパン

代理人 弁理士 中 尾 房 太 郎





136167

代理人 弁理士 中尾 秀太郎

添附書類の目録

(1)	明細書	1	通
(2)	図面	1	通
(3)	委任状	1	通
(4)	出願審査請求書	1	通
(5)	願書副本	1	通